

## 参加者の意見交換（主にBrillia City横浜磯子自治会の活動）

Q 市からの各種委員の依頼はどうしていますか？

A 基本は掲示し、立候補をする事を待っている。民生委員などは自主的に2名手が挙がっている。

Q 自治会の運営はどの様にしていますか？

A お祭りなどはやりたい人に挙手してもらい、実行運営してもらっている。企画会議は通常の行事等は実施しない、新規のものは事前会議を実施している。

Q 意見交換で気を付けていることは？

A 新年会、忘年会等での自己紹介で“報酬”の価値観を発信してもらっている。会議は子供も参加OKにしている。情報共有については役員間はLINEを活用、住民間は確実に知らせる場合は“チラシ”を用いている。意見のぶつかりは当初度々あった。その時は、自治会の理念に立ち戻り議論していった。

Q こんな短期間でこの自治会への愛着はどのように生まれたのですか？

A みんなと一緒に色々な活動をし、同じ目標に向かう同志だと感じると自然に生まれると思う。

Q 高齢者に対する活動はどうしていますか？

A 民生委員の役割も重要だが、ラジオ体操等で若い人が参加すると高齢者も参加してくれるようになる。

## 参加者の感想（アンケート結果より）

- 今回の受講者52名（会場44名、オンライン8名）のうち29名からアンケートに回答いただきました。
- 年齢構成は、20代4名、30～40代7名、50～60代6名、70代以上12名。市内の各自治会関係をはじめ、PTA関係、青少年育成団体、さらには他市の行政職員・自治会役員も受講していただきました。
- 内容については受講者全員が「期待どおり」で、6割以上の方が「期待以上」と高評価でした。
- 参考になる点として、親子参加型のボランティア、笑顔で楽しめる活動の工夫、理念や目標を共有することの大切さ、食事を共にできることでの信頼関係アップ、役員を強要せずにはまず参加してもらおう、一つ一つの活動の実践と振り返りが重要、等があがっていました。
- また、市内にも様々な活動に取り組む団体の考えを知ることができた、意見交換しながら新しい市民活動の形を探っていきたいとの声もありました。

## まとめにかえて

昨年度平塚市は市制90周年を迎え、「ひらつか地域づくり市民大学」は開講から10年が過ぎました。今年度は市制100周年を見据え、“連携・協働”のその先の“共に創る”ことをどうとらえていこうかと思案し、若い世代が積極的に参画している先進事例を紹介し、多世代が関わる新しい仕組みづくりを学んでいこうと企画しました。

人口増加の時代に築いてきた様々な地域活動は、少子高齢化が進む中でのコロナ禍を経て、改めて私たちが暮らす地域・まちをどのようにつくっていくかという理念を共有し、だれもが関わりたくなる・参加したくなる内容や取り組みへと移行していく段階に来ていることを再確認できたのではないのでしょうか。

様々な世代の思いを一つにしなが、わがまちづくりを進めていく新しい仕組みを整え、次世代につないでいくため、みんなで“チャレンジ”していきましょう。

わがまち物語という終わりなきドラマづくり。舞台は？ 脚本家は？ スポンサーは？ そして主役は誰か？ 楽しいところに人は集い、元気が生まれます。 想いを形に！ 知恵を力に！ できることからしたいことへ！ 人のつながりを大切に共に考え、行動することから、これからの“わがまち物語”をつくっていきましょう！

発行日：令和6（2024）年3月  
全体監修：鈴木奏到  
編集・構成：坂田美保子 鈴木奏到 津田潤 田中勉 長谷川正幸  
宮崎道名 二宮響子  
撮影協力：岡部詔重 鳥巢真亮  
デザイン：氏家真美  
企画・発行：特定非営利活動法人 湘南NPOサポートセンター  
協力：平塚市協働推進課 平塚市中央公民館 平塚市福祉総務課

特定非営利活動法人  
**湘南NPOサポートセンター**  
〒259-1217 平塚市長持568-5  
URL <http://snposc.org>  
e-mail [shonan@snposc.org](mailto:shonan@snposc.org)

本書は令和5年度、平塚市協働推進課、平塚市中央公民館、平塚市福祉総務課、NPO法人湘南NPOサポートセンターが協働して実施した「第11回ひらつか地域づくり市民大学」の報告書です。

## 第11回 ひらつか地域づくり市民大学：地域づくりフォーラム

# 次世代へつなぐ地域づくりの課題と展望

## 開催報告

誰もが住みやすい、住んでよかったと思える地域にむけて、次世代地域づくり人材の育成や多様な主体が連携・協力して課題解決に取り組んでいくための地域コミュニティの再生・創出が求められています。

今回の地域づくりフォーラムでは、参加者の皆さんと改めて課題を共有すると共に、先駆的な地域づくり活動を行っている横浜市磯子区での事例や、平塚市内で活動している団体の事例を紹介し、意見交換しました。



日時 12月17日(日) 13:30～16:00

会場 ひらつか市民活動センター

### 第1部 基調講演

## 次世代へつなぐ地域づくり

講師 田形 勇輔 さん（Brillia City横浜磯子自治会 会長）  
鈴木 梨里子 さん（Brillia City横浜磯子自治会 役員：中学3年生）

### 第2部 パネルディスカッション

## 誰もが関わりたくなる・参加したくなる地域活動とは

パネリスト 宇佐美 陽子 さん（市民活動団体「ママぎゅっと」代表）  
森田 鉄平 さん（高校生団体トンガリーズ顧問）  
野中 一宗 さん（横内こどもサポートネットワーク協議会 会長）  
丸島 隆雄 さん（平塚市地域教育力ネットワーク協議会 会長）

ゲスト 田形 勇輔 さん・鈴木 梨里子 さん（Brillia City横浜磯子自治会）

コーディネーター 梶田 佳孝 さん（東海大学建築都市学部教授）

主催 / 平塚市・特定非営利活動法人 湘南NPOサポートセンター

## 第1部 基調講演

# 次世代へつなぐ地域づくり

### ●「Brillia City 横浜磯子自治会」の概要

かつての横浜プリンスホテル跡地に再開発されたBrillia City横浜磯子のマンション自治会で、2017年に設立され、1230世帯（人口約3300人）が加入しています。

全国でも稀な中学生をはじめとする中高大学生の若者世代が役員になってユニークな自治会活動、地域づくりに取り組んでいます。



### ●「街に貢献する心地よさ」を提供して「愛着」を持てる地域づくり

田形勇輔自治会長は、自治会設立以来「役員の仕事が負担、なり手がなく、役員間の温度差の違い、自治会加入数の減少」等の課題がある中で、2019年の会長就任にあたり、自治会は何のためにあるのか？を考え、どうせやるなら楽しく活動できる自治会にしたいと自治会主催のBBQを開催しました。

想像以上に参加者が集まり、手ごたえを掴んだ田形会長は自治会活動の理念・ビジョンを以下のように掲げ、多様な住民・年代がいきいき活躍していける取り組みに着手しました。

### ★「自治会レポリューション！」～私たちのタウンマネジメント手法～

「コスト→報酬→愛着UP」の実体験を通じて「街へ貢献することの心地よさ」を住民の皆さんに提供しながら、「住民の手で街を活気づかせる」ことをめざす

- ・「コスト」は親子でのボランティア活動の時間と汗
- ・「報酬」はみんなの笑顔と感謝そして心地よさ
- ・「愛着UP」は自分のまちが好きになる

### ★親子ボランティアをきっかけに学生達が自治会役員に

楽しめた実感から自ら関わろうと中高大学生が自治会役員に立候補し、自治会もこれを受け入れていくことで、活動の厚み、組織基盤が強化されていっています。

- ・自治会活動の魅力・楽しさの発信
- ・デジタル化、IT化、YouTube開設による新しい企画・アイデア

さらに、自治会運営を次世代につなぐために「コミュニティマネジメント塾」に学生役員を派遣して担い手育成にも取り組んでいます。



### ●中学生役員が語る「自治会の運営に大事と考えること」！

小学生の時に参加した自治会のお祭りが楽しかったことがきっかけに、中学生になり自ら役員に立候補し活動している鈴木梨子さん（中3）はコミュニティマネジメント塾での学んだことを実践しています。

### ★理念を作成し、メンバーと共有化する

自治会活動を通じた皆さんの人と「つながり」を「笑顔」にしたい。

### ★強く温かい組織にしてい

新メンバーを温かく迎えるために全員で自己紹介しあう。

### ★多様な関わり方をデザインする

メンバーが違った関わり方をするのは当然な現象。これを食べ物に例えると、

- ・「炭水化物」 →この人がいないとダメ
- ・「タンパク質」 →団体の運営を支える存在裏方的な人
- ・「ビタミン」 →何かの時にサポートしてくれる大切な存在

多様な人材は重要で、多世代へ繋がられると思うと鈴木さんは話します。



## 第2部 パネルディスカッション

# 誰もが関わりたくなる・参加したくなる地域活動とは

### ●パネリストからの活動紹介



#### ●市民団体「ママぎゅっと」代表 宇佐美 陽子さん

子育て中のママやパパが楽しく子育てできる環境づくりがしたいと「ママぎゅっと」を立ち上げた。「ママぎゅっとフェス」の開催、「子育てするなら平塚で～1000人のママレポート」作成のほか「子育て世代に向けたWEBサイト」を開発し、「かわいい」を合言葉に、無理をしない共助を大切に活動している。



#### ●高校生団体「トンガリーズ」顧問 森田 鉄平さん

「高校生でも世の中を変えることが出来ますか？」との質問をきっかけに「一緒にやってみよう！」とトンガリーズを発足させた。

目標は高校生がやってみたくて実現する、誰もが期待できる未来を創ることをめざし、「2021年江ノ島シークレット花火」「2022年林間学校in箱根」「2023年平塚こども縁日」などを企画実施している。



#### ●「横内こどもサポートネットワーク協議会」会長 野中 一宗さん

子ども達の「生きる力」を育てることを目的に発足した親子の学びの場「横内マイタウンスクール」も昨年20周年を迎えた。活動のポイントは子どもが興味を持っていることを周りの大人が支えること。

令和6年度予定している防災キャンプでは、熱気球（「かながわ生き生き市民基金」助成）を上げ、子ども達に新しい体験と感動を与えたい。



#### ●「平塚市地域教育力ネットワーク協議会」会長 丸島 隆雄さん

地域教育力ネットワーク協議会は青少年の健全育成と地域の安全・安心であり、市内15の中学校区に設置され、関連団体と連携して各地区特徴ある自主事業を行っている。

大野中学校区では中学生のボランティア派遣事業として、地域の行事（地区レク、公民館まつり、盆おどり、スポーツゴミ拾い等）に中学生が積極的に参加している。

### ●コーディネーターからの質問と回答

コーディネーター：  
梶田 佳孝 さん（東海大学建築都市学部教授）



#### Q 場づくりに関わってくれる人はいますか？

A みんなが面白いと感じるコンテンツをInstagramで発信し、楽しくないものはやめることを考える必要がある。（宇佐美）

#### Q 高校生は自主的に行動していますか？

A ひとりの想いから世界が広がると考え、0から1に対応しようとする子には全力で付き合うようにしている。（森田）

#### Q 活動は継続が重要。仕掛けはどのようにしていますか？

A 自分が楽しく活動するのが良いと思っており、一緒にコミュニケーションを取るようにしている。（野中）

#### Q 自主事業はどのように工夫されていますか？

A 子どもの時に参加した行事には大人になった時にボランティアとして参加しやすい。役員が学校へ行き行事を紹介する等、顔の見える関係作りをしている。（丸島）

#### Q 顔が見える場を作ることは大切、BBQでの工夫はどのようにしましたか？

A 「一緒にごはんを食べられる人は信じられる」です。自分の方針を説明し、相手の方針も聞くことにより相互理解を深めることになると思う。（田形）

#### Q コミュニティマネジメント塾の感想は？

A 参加者が学校の友達と違って参考になることがあり、色々な団体を運営している人がいて共通の悩みがあることが分かった。（鈴木）